

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2025年1月11日
作成 高齢者支援センター	鶴川第2
作成者	鈴木 智明

1.開催日時	2024年12月12日	(木)	19:00	～	21:00
2.会場	第二清風園会議室とオンライン				
3.主催センター	鶴川1 ・ 鶴川2				
4.参加人数	87人				
5.参加者内訳	<input type="checkbox"/> 高齢者支援センター 7人 <input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター 2人				
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者 27人 (うち、医師 2人) <input checked="" type="checkbox"/> 介護事業者 41人				
	<input type="checkbox"/> 民生委員 人 <input type="checkbox"/> 老人会 人 <input type="checkbox"/> 住民 人				
	<input checked="" type="checkbox"/> 町内会自治会 1人 <input type="checkbox"/> 警察 人 <input checked="" type="checkbox"/> 行政 6人				
<input checked="" type="checkbox"/> その他 (医薬卸(1)、地区社協(1)、〇ごと(1))					
6.開催テーマ	大災害発生！オール鶴川で乗り切るために、今、私たちが出来ることは？				
7.地域課題	(1)課題設定の背景				
	鶴川圏域の地区別人口動態から、圏域の人口推移について確認すると、高齢者数、高齢化率共に上昇傾向にある。独居や社会的孤立により、医療や介護保険でのサービスを利用することで生活できている地域住民が多く存在している。				
8.会議の内容	(2)検討した地域課題				
	鶴川地区には災害時の医療拠点が少なく、災害発生時の避難宿泊施設も13か所である。その中で、災害発生時に医療や介護サービスを各事業所は速やかに提供できる体制整備としてBCP策定しているが、実効性があるのか疑問視する声もある。発災があった時を想定し、実効性のあるBCPの策定と、他事業所との連携体制の構築を進める事により、災害発生時でも市民へ早期のサービス再開を図る為の体制整備が求められる。				
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	昨年「大災害発生！オール鶴川で乗り切るために今、私たちが出来ることは？」をテーマに、①経緯説明(鶴1:佐藤氏)、②個別避難計画について(福祉総務課:小俣氏)、③介護事業所の取り組みとして、(1)居宅ケアマネジャーの取り組み(居宅ふくいん:三田氏)、(2)介護事業所の取り組み(ツクイ町田鶴川:田中氏)、(3)金井中避難所開設訓練(びーぶるケア:青木氏)、(4)金井町内会合同防災訓練(ハートケアプラン:堀場氏)、(5)大蔵町内会避難所開設訓練、大蔵町内会防災訓練(イワナガ大蔵薬局:鯨岡氏)、(6)意見交換(鶴川サナトリウム病院:斎藤氏)、④グループディスカッション、⑧グループ発表、⑨感想および総評の流れで開催。グループディスカッションでは多職種でグループ分けをしながら、自分の事業所で出来そうなこと出来なさそうなこと、利用者や患者にとって必要ことは何かなど、活発な意見交換が行われた。				
10.その他	次回1月23日の会議にて、グループディスカッションのまとめと開催後のアンケート集計結果を共有・分析し、今後の地域での展開について検討する予定。また、今回の会議内容を地域の医療・福祉関係事業所等にも知ってもらうため、「Let's！ケア会議」を作成し広報していく予定。				

医療と介護の連携支援センター 確認日	12月 26日
--------------------	---------